

甲斐路の房づくり講習会資料

平成26年6月
果樹技術普及センター

1. 新梢管理

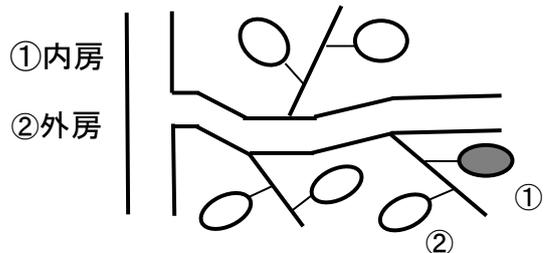
◆新梢が多く棚が暗い場合は、開花直前に混み合っている部分の新梢をかき、花穂に十分に光を当てる。

結実確認後 → 新梢数:3. 3㎡当たり18~20本(7尺5寸間当たり27~30本)
適正樹相の目安 → 開花直前60cm前後(最終新梢長2m)

2. 摘房の基準

◆新梢の伸びを見ながら、1~2房に摘房する(副穂と巻きひげの除去も同時に行う)

新梢の程度	摘房の目安
弱い新梢 (30cm以下)	基本的にカラ枝
中庸な新梢 (60cm程度)	1新梢1房
強い新梢 (100cm程度)	1新梢2房



3. 房づくりのポイント

◆目標果房重 → 500g

◆房づくりの時期→開花3~5分咲きより実施する(樹勢の強い樹は、房づくりは遅らせ満開期を目安とする)。

◆第1果房目が内房は良くない傾向

支梗が長大な大きな花穂

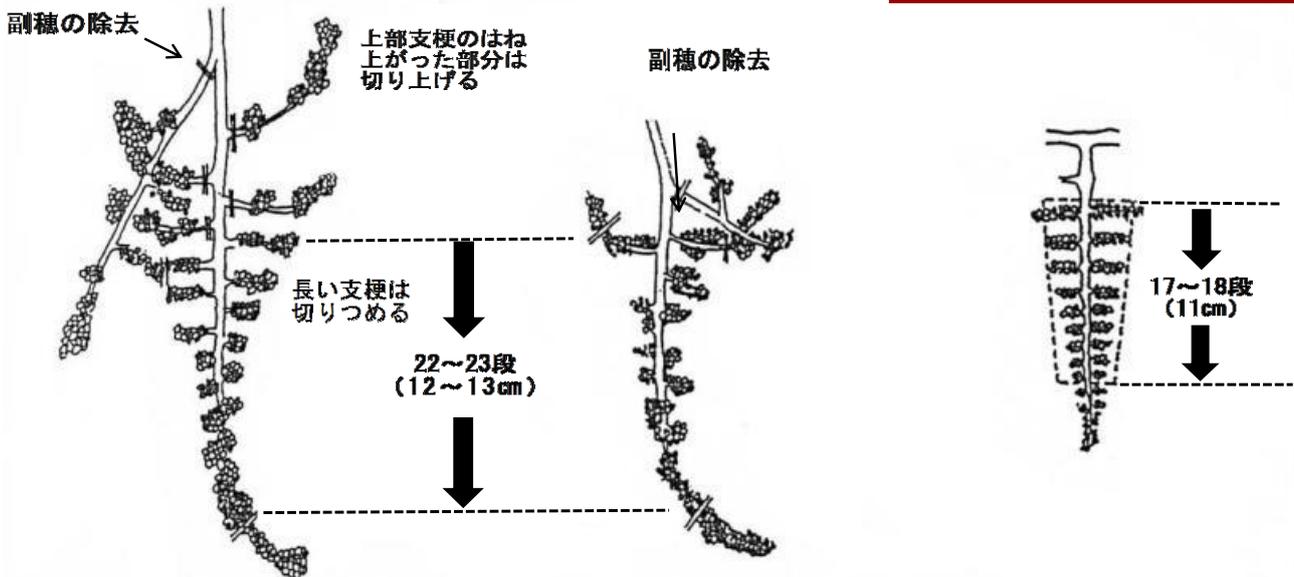
- ◆上部の3~4支梗を除去する。
- ◆長い支梗は軽く切りつめる
- ◆房尻は、22~23段で切りつめる

支梗が落ち着いた花穂

- ◆原則として上部支梗を使う。
- ◆上部の長い支梗は、軽く切りつめる
- ◆房尻は、22~23段で切りつめる

穂軸の小さな花穂

- ◆必ず上部支梗を残した房づくりとする。
- ◆上部の支梗を軽く切りつめる
- ◆房尻はやや強めに17~18段程度に切りつめる



★花カス落としを、小豆大までに必ず行って下さい！

安心・安全な農産物の生産に心がけましょう！